

## 《薬局サーベイランスコメント》

『2017年第10週のインフルエンザの推定受診者数は約38万5000人となり、5週連続で減少が見られている一方で、B型インフルエンザの割合が増加しつつあり』

2017年3月14日  
済生会中津病院感染管理室  
安井 良則

薬局サーベイランスによる今シーズン（2016/2017年シーズン）の2017年第10週（3月6日～3月13日）の全国のインフルエンザ推定受診患者数は384,619となり、第6週以降5週連続して減少が続いています（図1）。休日明けの月曜日（3月13日）の推定受診者数は82,102と6週連続して前週の月曜日の値よりも減少がみられており、第11週（3月13日～3月19日）も減少が続くと予想されます（図2）。

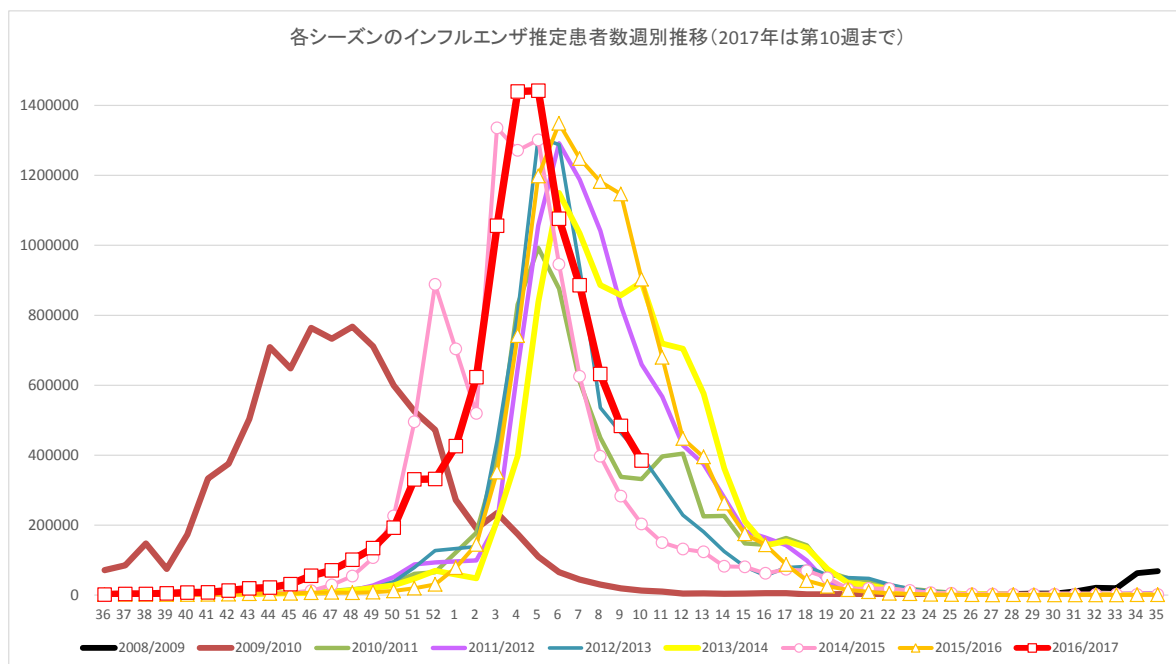


図1. 過去6シーズンと今シーズン（2016/2017シーズン）のインフルエンザ推定患者数の週別推移（第10週の推定受診患者数= 384,619）

2017年3月14日 (3月13日分更新)

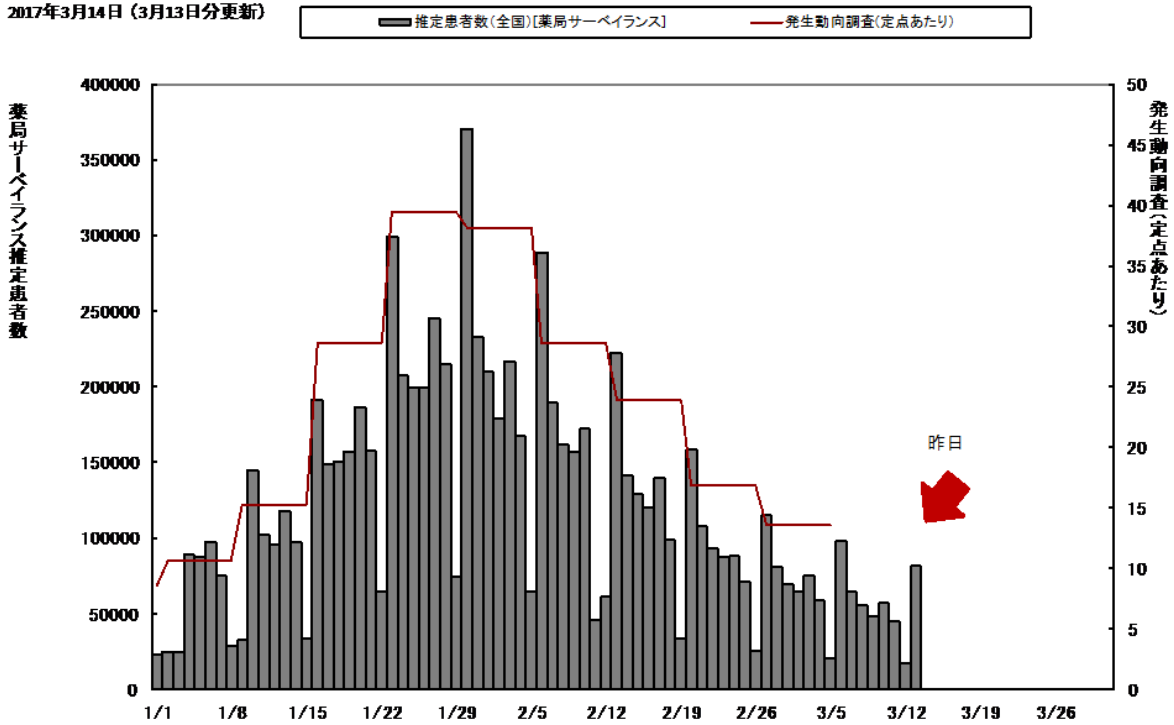


図2. インフルエンザ推定受診患者数の日別推移 (2017年1月1日～2017年3月13日 ; 2017年3月13日の推定受診患者数= 82,102)

2016年第36週から2017年第10週までの累積の推定受診患者数は9,778,772であり、日本の人口推計値(2016年11月1日現在、1億2695万人)で換算すると、推定の累積罹患率は約7.70%となりました。累積罹患率を年齢群別で比較すると5～9歳(26.58%、約141万人)、10～14歳(23.41%、約129万人)、0～4歳(16.83%、約87万人)、15～19歳(13.76%、約82万人)、30～39歳(7.23%、約110万人)、20～29歳(6.99%、約89万人)、40～49歳(6.39%、約121万人)、50～59歳(5.56%、約86万人)の順となっています(図3)。全ての年齢群で罹患率の減少が続いています。

各都道府県別の2017年第9週の人口1万人当たりの1週間の推定受診者数をみると、福井県、北海道、富山県、新潟県、山形県の順となっており、42都府県で前週よりも減少が見られました。

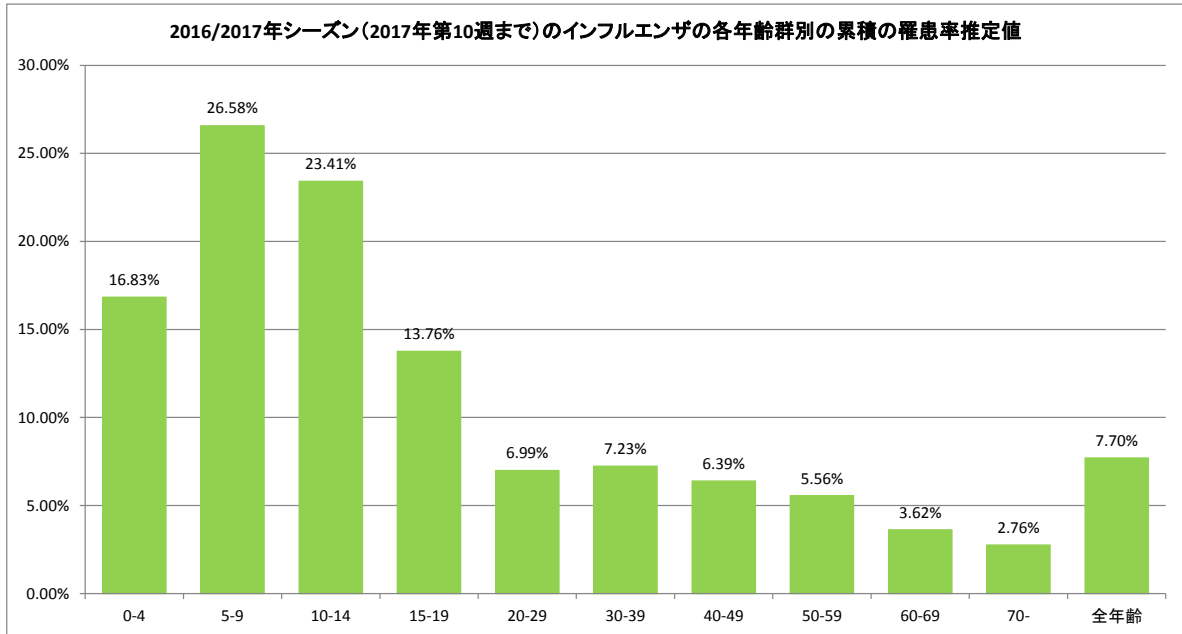


図3. 年齢群別のインフルエンザ罹患率推定値 (2016年第36~2017年第10週、累積の推定受診患者数総計= 9,778,772)

国立感染症研究所感染症疫学センターの病原微生物情報 (<https://nesid3g.mhlw.go.jp/Byogentai/Pdf/data2j.pdf>) によると、今シーズンこれまでにインフルエンザ患者由来検体から検出されたインフルエンザウイルス(4,500検体解析)は、A/H3(A香港)亜型が92.0%と大半を占めており、次いでB型4.7%、A/H1pdm3.3%の順となっています。直近の5週間をみるとB型の割合がやや増加しつつあります。

2017年第10週のインフルエンザの推定受診者数は約38万5000人となり、5週連続で減少が見られました。減少傾向が継続している一方で、B型インフルエンザの割合が増加しつつあります。今しばらくはインフルエンザの動向には注意が必要です。